

I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立青森第二養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	個別課題に取り組もう（教師と）		
	単元(題材)の目標	日常生活に生かすことのできる手指の動きを獲得する		
学習集団と実態	学部・学年・人数	高等	部	3 年 4 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	他人とのコミュニケーションがほとんどなかったり、自分の思い通りにならないと不穏になったりする。本単元の対象者は4人のうちの2人で、その生徒たちは鉛筆を持つが、字を乱雑に書いてしまったり、筆圧が弱く字が薄くなってしまったりする。個人によって実態が異なる学級である。		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad		
	使用したアプリケーションの名称	ひらがな		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 ( <input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援 ) <input type="checkbox"/> 活動支援 ( <input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 ( <input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援 ) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
I C T 活用のねらい	鉛筆を持って書くことができなかつたり、筆圧の強弱の調整が難しかったりするので、指で簡単になぞり書きができるようにするためにアプリを使用した。			
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆圧が弱くてもアプリが反応し、なぞるところに色がついたり、なぞっている際に音がでたりするので、生徒は意欲的に課題に取り組むことができた。</li> <li>アプリで繰り返し学習したところ、教師が用意したひらがなのなぞり書きプリントに少しずつ上手に書くことができるようになってきた。</li> </ul>			